

研究報告

対人関係能力の育成に構成的グループエンカウンターを実施した授業の効果 －看護学生の感情に着目して－

小坂 信子¹⁾ 永易 裕子²⁾

Results of classes which executed Structured Group Encounter for development of interpersonal relationship skill

－ Focusing on the nursing students' emotions －

NOBUKO KOSAKA YUKO NAGAYASU

要旨

対人関係能力の育成を目的にB看護短大1年生を対象に、SGEの体験学習を2回授業展開した。授業中のワークシートおよび実施後の振り返り用紙を「感情」に着目して分析した結果、以下のことが明らかになった。

1. 学生は自己の感情を基盤に「自己理解」「他者への関心」を高めるとともに、他者を意識した自身の行動の振り返りが行えていた。
2. 学生は自己の快・不快の感情を意識することを出発点に、聞き方が話し手に及ぼす影響を自覚し自分から相手へと立場を変換させていた。
3. 目的を明らかにしたエクササイズを選択により自己理解・他者理解を基盤にした対人間との相互作用へ発展させる効果が示唆された。

キーワード：対人関係能力、構成的グループエンカウンター、感情、自己理解

Abstract : I conducted a work-study class of SGE for freshmen students of B Junior College of Nursing twice, aiming at developing better their interpersonal relationship skills. The following was clarified when I analyzed a worksheet given during their classes and a reviewing form focusing on “Emotion” after implementation.

1. As well as being able to review their own actions with awareness of others, the students could better enhance “self-understanding” and “interests in others” based on their own emotions.
2. Starting from being aware of their own comfortable and uncomfortable emotions, the students changed their stance from self-awareness to awareness of others by the effects of the way of listening on the speaker.
3. It suggested the effects of development towards interpersonal interaction based on self-understanding and a greater understanding of others through a selection of exercises aimed to clarified that purpose.

Key words : Interpersonal relationship skills, Structured Group Encounter, emotions, self-understanding.

1) 看護学科 基礎看護学 准教授 中級教育カウンセラー 2) 看護学科 基礎看護学 助教
本研究は第12回北日本看護学会学術集会および第18回日本看護学教育学会で発表したものを発展させたものである。

I. はじめに

看護は患者と看護者との相互関係を基盤として展開される。そのため看護基礎教育では対人関係能力育成に向け、模擬患者導入による演習（大池ら、2005）、ロールプレイングでの展開（久米ら、2001）、エンカウンターグループによる展開（岩崎ら、2006）等、様々な取り組みがなされている。

筆者は、平成16年から某看護系短期大学（以下B看護短大）1年生を対象に、他者とふれあい、自身の本音に気づくことを意図した構成的グループエンカウンター（以下SGE）による体験学習を実施してきた。対人関係能力を育てる基盤となるのは学生の自己理解であり（池田、1997）、この4年間の経験から看護基礎教育におけるSGEの有用性を感じている。SGEに関する研究は、坂本ら（2006）の報告があるが、授業の一環として実践されたものはみあたらない。そこで今回は、対人関係能力の育成に向けてこれまで取り組んできたSGE体験による授業の効果を、学生の感情に焦点を当て分析する。

II. 研究目的

SGE実施後学生が記載したワークシートと授業終了直後の振り返り用紙をもとに、授業にSGEを取り入れた効果を学生の感情に焦点をあて明らかにする。

III. 用語の定義

対人関係：他者を意識した他者との関係や相互作用のありよう（相川、1996）

感情：感覚や観念、心的活動に伴って生じる快-不快の意識状態（竹中、2003）

IV. 授業展開

1. 授業（表1）は計2回で、1回目の後1週間おいて2回目を実施した。
2. 授業の目標
 - 1) 自分の傾向がわかる
 - 2) 自ら話すことができる(1)挨拶ができる(2)自己紹介ができる
 - 3) 非言語的コミュニケーションが相手に与える影響がわかる。
 - 4) 相手の話を聞くことができる。
3. エクササイズの選択（國分ら、2006）：感受性の促進・自己理解・他者理解の目的順で選択し、「2人組の触れあい」、次に伝わるメッ

セージを意識できる「対話の練習」で構成した。

表1 授業内容

1. 授業展開	
1回目	2回目
1) ジョハリの窓、SGEについて説明 2) KiSS-18の記入 3) エクササイズ： ①アウチでよろしく ②自由歩行 ③最高にうれしいおはよう	1) エクササイズ ①うれしい話の聞き方： テーマ： 「最近嬉しかったこと」 「否定的な聞き方・受容的な聞き方」 2) KiSS-18の記入
2. SGEの実施方法 (1) インストラクション：教員2名で実施 (2) エクササイズの実施 (3) シェアリングとその手順： ①自己洞察：体験を通して何を感じたか、どう思ったかを意識し記載する。 ②グループメンバーに対する自己開示：いま体験したことについて、感じたことや思ったことを、言葉や音楽、動作などで自己表現してみる。 ③全体シェアリング	
3 参加のルールの説明 (1) 基本的に参加は自由であり、その時々自己決定する。話したくない時はそのことを言葉で表現する。（例「そのことに関しては私は話できません」「それに関してこれ以上質問しないでください」など） (2) 自己表現は「I message」で話す。「私は～と思いました」と自分の思いを語る。態度、行動、雰囲気のみで自分が感じたことを話す。 (3) 発言内容や状況は互いに守秘義務を守る。	

V. 方法

1. 対象：B看護短大1年生で同意の得られた学生76名（回収率92.7%）
2. 時期：2008年1～2月
3. 調査用紙：1) 各回の授業で各エクササイズを実施後にImessage（私は～です）で記載したワークシート、2) 2回の授業終了後に学生が記載した自作の振り返り用紙(1)5段階による自己評価：自分の傾向の理解、他者を思う気持ち、他者の話が聞ける(2)授業全体の感想、3) 学生の自己理解を促すため記入させた1回目授業前と2回目授業後の社会的スキル測定尺度「KiSS-18」（菊池、2007）
4. 分析方法
 ワークシートや振り返り用紙に記載された授業後の感想は研究者間で感情や思いを含んだ一文を

分析単位としK J法にて分類しカテゴリ化。一定期間をおいて2回実施。振り返り用紙の5段階による自己評価は単純集計し中央値を算出。KiSS-18は実施前・後で得点および項目別得点の平均点を算出しt検定を実施。

5. 倫理的配慮

研究の目的・匿名性の遵守、協力の有無により不利益はない、本研究への参加は自由意志である、結果は集計・分析後に公表することを、授業開始前は口頭で、授業終了後は書面で説明し同意書を得た。本研究は学内研究倫理審査委員会の承認を得た。

VI. 結果

1. 各エクササイズにおける学生の感情の記載

1) アウチでよろしく (表2)

記載総数は76件で、内容は《不快な感情の自覚》《快の感情の自覚》《不快な感情から快の感情への変化》《情報伝達方法の認識》《その他》に分類できた。

2) 自由歩行・握手 (表3)

自由歩行の記載総数は76件で、内容は《不快な感情の自覚》《他者への立場の変換》《自身の行動の振り返り》《視野の広がり》《その他》に分類できた。握手の記載総数は68件で内容は《快の感情の自覚》《自身の行動の振り返り》《視野の広がり》《その他》に分類できた。

3) 最高にうれしいおはよう (表4)

記載総数は92件で、内容は《快の感情の自覚》《不快な感情の自覚》《対人関係構築における態度の重要性》に分類できた。

4) 嬉しい話しの聞き方

(1) 否定的な話の聞き方場面の話し手の感情 (表5-1)

記載総数は110件で、内容は《不快な感情の自覚》《関係性の断絶》《自己表現の抑制》《その他》に分類できた。

(2) 受容的な話の聞き方場面の話し手の感情 (表5-2)

記載総数は100件で、内容は《快の感情の自覚》《関係性の継続》《自己表現の欲求》に分類できた。

2. 授業後の振り返り用紙

1) 5段階による自己評価 (図1)

67名(88.2%)が記入し、5段階評価で点数

化した結果、新しい自分の発見がありましたか(中央値4)、自分の傾向が理解できましたか(中央値4)、相手を思う気持ちが持てるようになりましたか(中央値5)、他者の話が聞けるようになりましたか(中央値5)であった。

2) 授業全体の感想 (表6)

43名(56.6%)が記入し総件数70件で、内容は《聞き方による違い》《自己理解・他者理解》《クラスの交流》《患者との会話時の注意》《楽しかった》《その他》に分類できた。

3. 社会的スキル測定尺度KiSS-18の変化 (表7)

得点(平均値±SD)1回目授業前60.45±7.40、2回目授業後63.89±8.18と上昇し有意差があった(p<.01)。また「コミュニケーション」「問題解決」「トラブル処理」の因子別平均点も上昇し有意差があった(p<.01)。項目別平均点は「コミュニケーション」因子は全項目上昇し有意差があった(p<.01)。しかし「問題解決」因子の『9. 仕事をするとき、何をどうやったら決められますか』『12. 仕事の上で、どこに問題があるかすぐ見つけることができますか』と「トラブル処理」因子の『11. 相手から非難されたときにも、それをうまく片づけることができますか』『18. 仕事の目標をたてるのに、あまり困難を感じないほうですか』は変化なかった。

VII. 考察

本授業でS G Eの体験学習を行いワークシートと2回の授業終了後の振り返り用紙を分析した結果、学生は自己の快-不快の感情に気づき、対人関係構築における態度の重要性に気づいており、「自己理解」や「他者への関心」が高まった。

エクササイズは、2人組の他者とのふれあいで緊張をほぐし、伝わるメッセージを意識した対話の練習と段階的な展開になるよう選択した。また、1年次生の学習進度に合わせた身近な話題で展開したことが効果的だったと考えられる。

國分(2002)は、自己発見とは、①思考②感情③行動の三領域のいずれかが拡大修正されることと述べている。今回のS G E体験で学生は、エクササイズ後シェアリングし、自己表現はImessageで行ったことで、自分の感情に気づき感じ方の傾向や他者との違いなどの新たな発見があったものとする。特に「嬉しい話しの聞き方」では“話を否定的および受容的に聞かれる”とい

表2 アウチでよろしく (総件数：76件)

記載された感情の記録単位	サブカテゴリ	カテゴリ
・普段あまり接することがない人と指を合わせて笑顔で「アウチ」というのは恥ずかしかった。 ・相手の目を見たり触れあったりすることに慣れていないせいかととても恥ずかしかった。	恥ずかしい (10件 13.2%)	不快な感情の自覚 (18件 26.7%)
・指を合わせるとき、とても緊張した。 ・指先だけでも他者に触れるというのは抵抗があった。	緊張・抵抗 (4件 5.3%)	
・途中目を合わせてくれない人がいたのでショックだった。 ・やってる途中で指が合わなかったときは悲しかった。	ショック・悲しい (2件 2.6%)	
・まだ親しくない人とやるときは少しとまどった。	戸惑い (2件 2.6%)	
・あまり目を合わせたことのない人と近づけて嬉しかった。 ・相手が笑顔でやってくれると嬉しかった。	嬉しい (4件 5.3%)	快の感情の自覚 (9件 11.8%)
・指を合わせてボディタッチすることで親近感が生まれた。	親近感 (3件 3.9%)	
・楽しかった。みんなの笑顔がみれて幸せな気分になった。	楽しい (2件 2.6%)	
・初めは恥ずかしいと思ったけれど、途中から楽しく行うことができた。 ・指を合わせて「アウチ」と話すのは恥ずかしかった。思わず照れ笑いをしてしまった。でも慣れると楽しくて自然な笑顔になった。	恥ずかしさが緩和され楽しくなった (40件 52.6%)	不快な感情から快の感情への変化 (42件 55.3%)
・初めはすごく抵抗があったが、だんだん慣れてきた。	抵抗感の緩和 (2件 2.6%)	
・指が一本触れただけでも、ただ挨拶するより気持ちが伝わると思った。相手と目を合わせるだけで笑顔が出やすくなった。 ・声の調子から相手の状態を知ろうと思った。	情報伝達における触覚・視覚・聴覚の重要性 (3件 3.9%)	情報伝達方法の認識 (5件 6.6%)
・言葉を使わないで順番に座るとき、言葉で伝えることの大切さを改めて感じた。	情報伝達における言葉の重要性(2件 2.6%)	
・最初はくだらないと思ったが、みんなが楽しそうだったのでそれを見ていると楽しくなってきた。 ・なぜか笑えてきた。	その他 (2件 2.6%)	

表3 自由歩行／握手 (総件数：自由歩行76件、握手68件)

	記載された感情の記録単位	サブカテゴリ	カテゴリ
自由歩行	・一人で歩いていると不安になった。 ・最初1分間ただ黙って歩いているのは何か不安な感じがした。	不安 (34件 20.4%)	不快な感情の自覚 (64件 84.2%)
	・人はたくさんいても一人で歩いていると孤独。 ・一人で歩いているときはまわりの表情がとても気になり、さらに孤独を感じた。	孤独 (15件 9.0%)	
	・寂しい気持ちになった。 ・周りに知っている人がいるのに、誰とも話さないで歩くのは少し寂しい感じがした。	寂しい (11件 6.6%)	
	・全く無言で歩いていると、たまに肩がぶつかったりしてしまっていて、非常に恐怖心が増した。	恐怖 (2件 2.6%)	
	・無言で一人で歩くのは悲しい感じがする。	悲しい (2件 2.6%)	
	・患者さんが一人で歩くのは寂しいかもしれないと思った。	患者の寂しさ (2件 2.6%)	他者への立場の変換 (2件 2.6%)
	・看護師になるために一人でも行動できるようにしなければと思った。	看護師としての行動(2件 2.6%)	自身の行動の振り返り (2件 2.6%)
	・一人ずつなっているクラスメートを見ることがないので、珍しくあちこちに注意しながら歩いた。 ・意外と周りをみないのだなと思った。	周囲への関心 (4件 5.3%)	視野の広がり (4件 5.3%)
	・買い物にぶらぶら一人で歩くのは嫌だけど、目的もなく歩くのはなぜかどうしていいのかわからない。	その他 (4件 5.3%)	
	握手	・握手をしたとき、その人の温かさに触れられなぜか嬉しくなった。 ・止まったところで近くの人と挨拶することで嬉しい気持ちになった。	嬉しい (30件 44.1%)
・1分間たって近くの人と挨拶を交わした時はほっとした。 ・声を交わした時には大きな安心感が得られた。		安心 (11件 16%)	
・挨拶するときはずっと楽しかった。		楽しい (2件 3%)	
・初めて出会う人と挨拶するとき、うろたえず最高の笑顔でしたいと思った。		初対面時の行動 (6件 9.0%)	自身の行動の振り返り (6件 9.0%)
・握手のため周りを見ると「こんなに周りにいたのか」と思った。		周囲への関心 (4件 6.8%)	視野の広がり (4件 6.8%)
・仲のよい友達にあうとお互いにやけてしまった。		その他 (15件 21%)	

表4 最高に嬉しいおはよう（総件数：92件）

記載された感情の記録単位	サブカテゴリ	カテゴリ
・目を合わせ、笑顔になり、相手のテンションにあったテンションで挨拶することで嬉しいと感じた。 ・名前を呼ばれると更に嬉しくなる。	嬉しい (31件 33.7%)	快な感情の自覚 (39件 42.3%)
・軽いボディタッチが親しみを感じた。	親近感 (4件 4.3%)	
・相手のテンションにあわせて、笑顔で相手の目を見て挨拶するのが気持ちいいと思った。	気分の高揚 (4件 4.3%)	
・どのような明るさで挨拶したらよいかわからなかったため、恥ずかしさを感じた。	戸惑い・恥ずかしい (6件 6.4%)	不快な感情の自覚 (6件 6.4%)
・声のトーンや表情など意識すると、対人関係の始まりがよい形で始まると思った。 ・笑顔や眼を会わせることでつながった気がした。 ・ボディタッチをすることで一気に距離が縮まったように感じた。	自分の行動と対人関係と のつながり (47件 51.3%)	対人関係構築にお ける態度の重要性 (47件 51.3%)

表5-1 嬉しい話の聞きかた〈否定的に聞かれた場合の感情（総件数：110件）〉

記載された感情の記録単位	サブカテゴリ	カテゴリ
・目を合わせてもらえなかったり、足を組まれたりするのがすごく嫌で悲しかった。	悲しい (17件 15.8%)	不快な感情の 自覚 (62件 56.4%)
・一人でしゃべっている感じが寂しかった。	寂しい (9件 8.2%)	
・相手が聞いているのかいないのか分からなくてとても話しづらかった。	話しにくい (11件 10.0%)	
・相手にいいたいことが伝わっているのか不安になった。	不安 (8件 7.3%)	
・話を聞いてもらえないことで少し腹が立つ。	いら立ち (4件 3.6%)	
・聞いているのか分からなくてイライラした。		
・適当な相づちをうたれてショックだった。	ショック (2件 1.8%)	
・「ふーん」「へー」と流されるとすごく不快な気分になった。	不快な気分 (2件 1.8%)	
・冷たい目だったので見下されていると思った。	見下されている (2件 1.8%)	
・自分が楽しいと思っていることを相手は楽しみなさそうに聞くので落ち込んだ。	気分の落ち込み (1件 0.9%)	
・全く目を合わせようとしなから孤独な感じがした。	孤独 (1件 0.9%)	
・話しが続かなくて楽しくなかった。	楽しくない (1件 0.9%)	
・自分が一生懸命話しているのに、髪の毛をさわったり下を向いて聞いていない態度をされるとがっかりした。	不満・落胆 (2件 1.8%)	
・このまま話してよいかと機嫌を悪くさせてしまったと心配になる。	心配 (2件 1.8%)	
・楽しいとかうれしい話をしているのもっと楽しさを共感してほしい。	聞いてもらえない (7件 6.4%)	関係性の断絶 (11件 10%)
・足組・腕組みされて、自分の話は楽しくないし興味がないと思った。	自分への無関心 (4件 3.6%)	自己表現の抑制 (21件 19.1%)
・目を見てくれないし興味がなさそうな返事をされると話したくなかった。	話す気が起こらない (13件 11.8%)	
・つまらなそうな態度、あくび、爪いじりなどが嫌だった。	話すのが嫌になった (8件 7.3%)	
・話すことに夢中になっていて、あまり聞かれていない気がしたけれど気にならなかった。	その他 (16件 14.5%)	

表5-2 嬉しい話の聞きかた〈受容的に聞かれた場合の感情（総件数：100件）〉

記載された感情の記録	サブカテゴリ	カテゴリ
・相づち、質問など自分の話をしっかり聞いてくれたので嬉しかった。	嬉しい (36件 36.0%)	快な感情の自覚 (60件 60%)
・「それで、それで？」という興味がある態度で聞いてくれたので、ドンドン話しが展開して行って楽しく会話が弾んだ。	楽しい (12件 12.0%)	
・笑顔で身を乗り出して話を聞いてもらえ話しやすかった。	話しやすい (10件 10.0%)	
・話をしていいんだなあと安心した。	安心 (2件 2.0%)	
・話すときに相づちをしてくれたり質問されると聞いてくれているんだと実感した。	聞いてくれている (8件 8.0%)	関係性の継続 (14件 14%)
・目を合わせてくれると自分に興味を持ってくれているように感じた。	自分への興味・関心 (4件 4.0%)	
・相づちをうってもらえると自分を認めてもらえているように思えた。	承認 (2件 2.0%)	
・自分の話でドンドン内容や自分の思ったことを伝えたいという気持ちになった。	伝えたい思いの高まり (12件 12.0%)	自己表現の欲求 (26件 26%)
・相手の目を見て笑顔で声のトーンも大切だと思った。	その他 (14件 14.0%)	

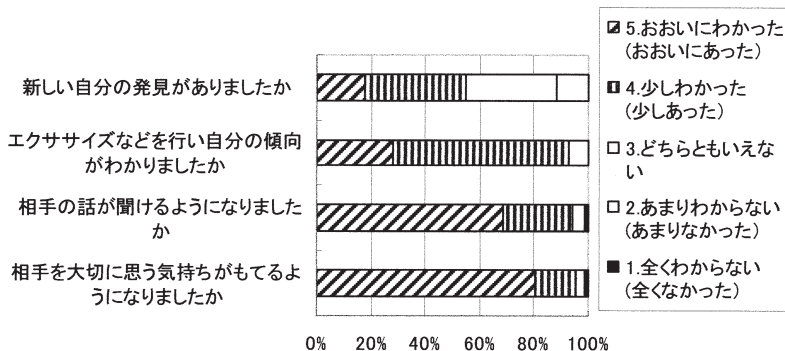


図1 授業後の振り返り (5段階評価 n=67)

表6 授業後の振り返りとしての感想 (総件数: 70件)

感想	カテゴリ
・話し手の気持ちも相手の聞き方によってだいぶ変化することが分かった。 ・拒否的な話し方の聞き方と相手に関心をもって聞く聞き方では、話の盛り上がり方は全然違った。	聞き方による違いの理解 (38件 54.3%)
・いろいろな人とやっていると、人それぞれ異なるので楽しかった。 ・相手のことを知るによりうれしさを感じ、自分のことを知ってもらうことによりうれしさを感じるので、コミュニケーションは大切と感じた。	自己理解・他者理解 (11件 15.7%)
・今まで会話をしたことがない人とスムーズに会話することができた。	クラスの交流 (8件 11.4%)
・患者さんとどういった挨拶をしたらよいか、この授業を踏まえて最後に考えることができた。	患者との会話時の注意 (4件 5.7%)
・看護師にとって大切なコミュニケーション学習を楽しくできて参考になった。	楽しかった (3件 4.3%)
・会話というものとはとても奥深いものだ分かった。	その他 (6件 8.6%)

表7 KiSS-18の得点の変化 実施前 (平均値±SD) : 60.45±7.40
実施後 (平均値±SD) : 63.89±8.18 } **

因子	項目	実施前	実施後	
コミュニケーション	5. 知らない人とでも、すぐに会話が始められますか。	3.25	3.76	**
	8. 気まずいことがあった相手と、上手に和解できますか。	3.22	3.43	**
	10. 他人が話しているところに、気軽に参加できますか。	3.21	3.57	**
	13. 自分の感情や気持ちを、素直に表現できますか。	3.33	3.61	**
	15. 初対面の人に、自己紹介が上手にできますか。	3.13	3.57	**
	平均	3.23	3.59	**
問題解決	1. 他人と話していて、あまり会話がとぎれない方ですか。	3.34	3.54	**
	2. 他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか。	3.32	3.49	**
	3. 他人を助けることを、上手にやれますか。	3.39	3.57	**
	4. 相手が怒っているときに、うまくなだめることができますか。	3.22	3.42	**
	9. 仕事をするとき、何をどうやったらよいか決められますか。	3.50	3.55	
	12. 仕事の上で、どこに問題があるかすぐに見つけることができますか。	3.16	3.25	
平均	3.32	3.47	**	
トラブル処理	6. まわりの人たちとのあいだでトラブルが起きてもそれを上手に処理できますか。	3.25	3.38	**
	7. こわさや恐ろしさを感じたときに、うまくそれを処理できますか。	3.25	3.39	*
	11. 相手から非難されたときにも、それをうまく片づけることができますか。	3.03	3.14	**
	14. あちこちから矛盾した話しが伝わってきても、うまく処理できますか。	3.42	3.58	**
	16. 何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか。	4.17	4.28	*
	17. まわりの人たちが自分とは違った考えをもっていてもうまくやっていますか。	3.71	4.28	**
18. 仕事の目標をたてるのに、あまり困難を感じないほうですか。	3.54	3.58		
平均	3.48	3.66	**	

(* : p < .05, ** : p < .01)

う正反対の体験では、〈不快－快〉の感情の自覚、関係性の〈断絶－継続〉、自己表現の〈抑制－欲求〉というカテゴリを抽出できた。そこで生じた自身の快・不快の感情を意識することを出発点とし、聞き方が話し手に及ぼす影響を自覚し自分から相手へと立場を変換させることができたと考えられる。

授業後の振り返り用紙の5段階評価結果では、「自分の傾向の理解」「相手を思う気持ちが持てる」「他者の話が聞ける」の中央値が4～5であり、さらに「KiSS-18」の結果では、「コミュニケーション」因子の得点の変化があったことから、授業目標は達成できていると考える。

しかし、今回の2回の授業は1週間の間隔があり、さらに学生は初の臨床実習をひかえ対象とのよい関係づくりのスキルに関心が高かった可能性、他の授業の影響、1回目の授業後学生が自覚し努力した可能性などが考えられるため、SGEによる授業の効果と判断できない面もある。坂本ら(2006)は2日間の合宿型で実施したオープナー・スケールの変化からSGE体験は共感因子やなごませ因子が変化し相手の自己開示を促す能力が向上すると述べている。今回は坂本の報告と方法や分析視点が異なるが、SGE体験は、「感情」を意識した自己理解・他者理解を基盤にした自己開示を促す能力が向上し、対人間との相互作用へ発展させる効果があることが示唆される。

一方、KiSS-18の「問題解決」因子の2項目、「トラブル処理」因子の2項目は変化が見られなかった。これは選択したエクササイズの目的に入っていなかったためと考える。

授業では、参加のルールとして3項目(資料1)あげ、特に「基本的に自由参加であり話したくないときは言葉で表現すること」を説明した。今回「話したくない」と意思表示をした学生の有無は確認できなかったが、授業のため抵抗を感じながら参加している可能性もある。抵抗の理由は、エクササイズへの関心の薄さや照れ、また無意識の領域が意識化される過程における心理的な防衛機制の発現等が考えられる。福井は、授業による対人関係の技能促進訓練について体験が心的外傷とならないよう学生の内的世界の安全を保障する必要があると述べている(2007)。大半の学生が青年期であり多感で人格形成の時期でもあることから、この授業で自己理解が進み急激な行動変容が促される可能性もある。教員は、このように揺れ

動きやすい学生の相談窓口になることを伝えておくことが必要と考える。またファシリテーターの役割から考えると、対象数の検討が必要である。

看護実践の第一歩は、看護を必要とする他者へ関心を寄せることである。看護の初学者が他者への関心の向け方の一方法をSGE体験を通して学習することは有意義であると考えられる。今後は、対人関係能力の測定用具や方法などを検討していきたい。

2009年からの看護教育新カリキュラムでは、チームの中での意思疎通、看護を実践する上で患者との関係性を保つなど、コミュニケーション能力の強化が教育内容に組み込まれている(野村、2007)。今後は、看護実践に必要な問題解決スキルやトラブル処理スキルの向上をめざし、自己理解を基盤とし相互の関係性を大切にしたい自他尊重のアサーショントレーニング(鈴木、2005)等の体験学習の検討が必要であると考えられる。さらに1年生のみを対象とした授業ではなく、各学年の学習進度に沿った学習目標を設定し、看護者としての対人関係能力を育むための縦断的・段階的な授業展開を視野に入れ、エクササイズ内容を精選・発展させていきたい。

VIII. 結論

対人関係能力の育成を目的にB看護短大1年生を対象にSGEの体験学習を行った。実施後のワークシートおよび振り返り用紙を「感情」に着目して分析した結果、以下のことが明らかになった。

1. 学生は自己の感情を基盤に「自己理解」「他者への関心」を高めるとともに、他者を意識した自身の行動の振り返りが行っていた。
2. 学生は自己の快・不快の感情を意識することを出発点に、聞き方が話し手に及ぼす影響を自覚し自分から相手へと立場を変換させていた。
3. 目的を明確にしたエクササイズの選択により、自己理解・他者理解を基盤にした対人間との相互作用へ発展させる効果が示唆された。

謝辞：本研究にご協力頂いた学生の皆様に感謝申し上げます。

文献

- 1) 相川充、津村俊光(1996)：社会的スキルと対人関係 自己表現を援助する, p4～16, 誠心書房.
- 2) 福井康之(2007)：対人スキルズ・トレーニング

- 対人関係の技能促進修練ガイドブック, p53, ナカニシヤ出版.
- 3) 池田紀子 (1997) : 看護学生のコミュニケーション理解のための授業, 看護カウンセリング, p165-173, 医歯薬出版.
 - 4) 岩崎朗子 (2006、原田慶子、吉田聡子、大脇百合子) : エンカウンターグループが看護学生のコミュニケーションの認識に与える影響, 長野県看護大学紀要, 8, p61-69.
 - 5) 菊池章夫 (2007) : 社会的スキルを図る KiSS-18ハンドブック, 川島書店.
 - 6) 國分康孝・國分文子総編集 (2006) : 構成的グループエンカウンター事典, p348, p474, p534, p474, 図書文化社.
 - 7) 國分康孝 (2006) : 続 構成的グループ・エンカウンター, p6, 誠信書房.
 - 8) 久米弥寿子、小笠原知枝 (2001) : ロールプレイング演習における看護学生のコミュニケーション技術に対する自己・他者評価に関連する要因, 第21回日本看護科学学会学術集会講演集, p108.
 - 9) 野村陽子看護課長へのインタビュー (2007) : 看護実践能力の強化に向けて, 看護教育, 48(7), p551.
 - 10) 大池美也子 (2005、村田節子) : 医療職教育機関における模擬患者を含むコミュニケーション教育-平成16年度の教育実践から-, 九州大学医学部保健学科紀要, 5, p101-112.
 - 11) 坂本洋子 (2006、藤野ユリ子、大塚邦子、石橋通子他) : 「人間関係論演習」における構成的グループ・エンカウンターの有効性の検討, 日本赤十字九州国際看護大学 I R R, 第5号, p1-8, p6.
 - 12) 鈴木敦夫 (2005) : アサーショントレーニング教育カウンセリングの方法とスキル, 教育カウンセラーテキスト, p102, 日本教育カウンセラー協会編.
 - 13) 竹中直人 (2003) : 心理学事典, p124, 平凡社.